

滋賀県平和祈念館 年報

第 3 号

(平成 26 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成24年（2012年）3月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として、県民のみなさまの大きな期待と希望を担って開館しました。開館の初年目にあたる平成24年度の活動（23年度分を含む。）については、『滋賀県平和祈念館 年報』第1号（平成25年（2013年）12月刊行）、平成25年度の活動については『滋賀県平和祈念館 年報』第2号（平成26年（2014年）7月刊行）にまとめ、報告したところです。本号では、引き続き平成26年度の活動をまとめています。

当館では、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という3つの基本方針のもとで、県民の戦争体験を語り継ぐ事業として、展示事業をはじめ、資料収集保存事業、普及啓発事業、平和学習支援事業、ボランティア活動支援事業などを行っています。

平成26年度の展示事業としては、第8回企画展示『還らなかった友へ～時代に翻弄された友人、そして家族～』、第9回企画展示『子どもたちの見た滋賀の戦争』、第10回企画展示『収蔵品が語る戦時の想い』のほか、特別企画展示『故郷（ふるさと）』や地域交流展示『戦場に輝くベガ』パネル展などを行いました。また大津市立上田上小学校より寄贈いただいた「奉安庫」を2階に常設展示しました。そして戦争体験聞き取り調査や収集資料の整理は、引き続き精力的に続けています。

平成26年度の普及啓発事業では、戦争体験者のお話を聞く会や平和学習講座、体験学習イベントや戦争遺跡見学、夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」、そして子どもピースメッセージ・コンクールや自分史づくり講座など、大人から子どもまでが参加できる様々な事業を行いました。平和学習支援事業では、学校生徒の来館学習や出前授業、資料の貸出に加えて、平成26年度より地域への平和学習支援として、出前講座を新たに開始しました。

当館ではボランティア活動もさかんで、約60名の方が語り部・語り継ぎ部活動をはじめ、7つのグループ活動があり、当館の様々な事業で協働がすすんでいます。

当館は県民のみなさまのご支援をいただきながら、開館3年目を乗りきることができました。これからも日々、当館の運営を見直し、改善を行うため、本誌をご高覧いただいたみなさまには、忌憚のない意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

そして今後とも当館の運営にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

平成27年（2015年）7月

滋賀県平和祈念館

館長 端 信 行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 企画展示	3
(2) 特別企画展示	16
(3) 地域交流展示	17
(4) その他の展示	19
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査	22
(2) 収蔵資料の整理・保存	23
3 普及啓発事業	
(1) 平和学習講座	24
(2) 戦争体験を聞く会	25
(3) 戦争遺跡見学フィールドワーク「米原蒸気機関車避難壕の見学」	27
(4) 平和を祈念する日事業「戦争のこと おしえて」	27
(5) プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ」	29
(6) 特別講演「ベガのはなし」	30
(7) 開館3周年記念事業	30
(8) 館長講座「自分史づくり講座」	32
(9) 特別講演「自分史のすすめ」	32
(10) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」	33
(11) 夏休みミュージアム・スクール「へいわの学校☆あかり」	34
(12) 平和を願う子どもピースメッセージコンクール	36
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援	38
(2) 出前授業	38
(3) 地域への平和学習支援	39
(4) 資料の貸出による平和学習支援	39
(5) 戦争体験者証言映像の制作	40
5 ボランティア活動支援事業	41
II 資料	
1 利用状況	43
2 広報活動	47
3 組織	51
4 決算	52
5 施設概要	53
6 利用案内	54
7 関係規程	55

1 展示事業

(1) 企画展示

第8回企画展示「還らなかった友へ ～時代に翻弄された友人、そして家族～」



第8回企画展示

- 会期 平成26年(2014年)6月28日～9月28日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 夏の広告塔 団扇(うちわ)
- 開催趣旨と概要

昭和のはじめのころ、今と変わらない日常の暮らしの中で、常に隣り合わせにあったのが「戦争」、すなわち「死」だった。「戦争」は若者たちの思想に影響を与え、その家族をも傷つけてしまう。

本企画展示では、戦地へ旅立ち、還らなかった一人の青年について、友人や家族の証言、資料から思いを寄せ、当時の青年たちが過ごした時代に何が起こり、人びとは何を思っていたのかを伝えた。



第8回企画展示チラシ 表面



第8回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「幼少期 -13歳までの幼なじみ-」

高橋さんが生まれる前に、お父さんは病死されていた。そのため、お母さんと一緒に住んでいたおばあさんに、家の跡取りとして大切に育てられた。昭和2年（1927年）、湯田尋常高等小学校（今の長浜市立湯田小学校）へ入学してからは、成績も優秀で、級長（今の学級委員）にもなった。



「青春を過ごした十代半ば -お国のためと志願を決意-」

虎姫中学校（今の滋賀県立虎姫高校）に進学した高橋さんは、中学3年生の15歳のとき、「お国のためだから」と昭和12年（1937年）、海軍が搭乗員養成のために設けた甲種飛行予科練習生に志願した。当時、幹部候補生を養成した海軍兵学校相当の難関試験に見事合格し、翌年の3月に虎姫中学校を4年で中退して、入隊することになった。



「予科練での厳しい訓練 -飛行機乗りになるのが夢でした-」

高橋さんは昭和13年（1938年）4月1日、横須賀海軍航空隊（第2期甲種飛行予科練習生）へ入隊した。入隊後も高橋さんの大変まじめな性格は変わらず、「飛行機乗りになるのが夢」と語りながら、厳しい訓練の日々を過ごした。その後、飛行予科練習生を卒業し、昭和14年（1939年）には海軍三等航空兵曹として任務に就いた。



「攻撃に参加 ー二次攻撃隊としてー」

高橋さんは、宇佐海軍航空隊から航空母艦「蒼龍」の爆撃機搭乗員として任務に就いた。そして、昭和16年（1941年）12月に西太平洋での攻撃へ参加し、搭乗機が被弾したため、米軍の艦艇に体当たり攻撃し、戦死した。高橋さんの20歳の誕生日まで、あとひと月あまりの出来事であった。



「手紙を読む」

故郷に暮らす母を思いながら送った手紙と予科練時代のノート「海鷲」から、高橋亮一さんの当時を見つめ、来館者に問いかける展示をした。



「残された家族、そして友」

友人たちは、高橋さんの死を知っても心が大きく動くことはないほど、死が日常化した毎日を送っていた。亡くなった高橋さんを周囲は軍神と呼び、お母さんは軍神の母と崇めた。しかし、終戦を境に周囲の態度が一変してしまった。一人息子の高橋さんを失ったお母さんの悲しみは深く、高橋さんのことは何も語らなくなってしまった。しかし、高橋さん愛用の品々や遺書などは大切に保管されていた。



○関連展示

収蔵展示スペースにおいて、古くは儀式や占いなどの信仰の場で用いられ、江戸時代に入ると夏の風情を楽しむ生活道具として広まった団扇を取りあげた。戦前の団扇は、国民の戦意高揚などの国策に利用され、兵士が飛行機、日の丸などの絵柄が描かれたものが多く作られた。



第9回企画展示「子どもたちの見た滋賀の戦争」



第9回企画展示

- 会期 平成26年(2014年)年10月4日～12月21日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 県民の方から寄贈いただいた軍装品
- 開催趣旨と概要

本企画展示では、「少国民」「戦時の学校」「戦時の暮らし」「滋賀県の空襲」「集団学童疎開」「学徒勤労動員」の6つコーナーを設けて、戦争中、子どもだった人たちの視点から当時の出来事などを紹介した。当時の子どもたちが、どのような体験をし、どんなことを考えていたのかを知ること、世代を超えて平和について考えた。



第9回企画展示チラシ 表面



第9回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「少国民 ー子どもは立派な国民だったー」

子どもたちは「少国民」と呼ばれ、「子どもでも立派な国民で、戦争に協力しなければならない。」と教えられていた。天皇陛下に仕える小さな皇国民という意味で呼ばれ、当時の男の子たちは兵士になってお国のために戦うことが夢だった。



「戦時の学校」

昭和16年(1941年)、小学校のよび方が「国民学校」になると、学校は授業の内容や作業にも戦争への協力が求められるようになった。木銃（木でつくった銃の模型）を使って戦争の訓練をする授業が行われたり、食糧増産のために運動場にサツマイモを植えたりした。



「戦時の暮らし」

地域では、戦争を続けていくために食べ物や金属などを差し出す「供出」や、戦地に行く兵士の見送り、そして空襲に備えた防空演習、国内が戦地になったときに備えて竹やりで敵をたおすための訓練が行われた。日々の生活は戦争によって影響を受け、変化していった。こうした戦争を支える地域や人々は「銃後」と呼ばれ、その中心は女性たちだった。



「滋賀県への空襲」

滋賀県内では昭和 20 年（1945 年）5 月から、軍事施設や軍需工場があった地域をだけでなく、学校や駅、人が乗っている列車への空襲もあった。滋賀県への空襲は、飛行機の機銃掃射による攻撃がたびたびあった。今回は、昭和 20 年（1945 年）7 月 30 日の守山駅一帯に起きた機銃掃射の被害である被弾した家屋の一部を公開した。



「学徒勤労働員 ー勉強よりも増産ー」

戦争が長引き、働き手である多くの男性が戦争へとかり出されると、今の高校生や中学生にあたる生徒たちは、農業などを手伝うようになった。そして、滋賀県内をはじめ都市にある軍需工場などで働かなければならなくなった（「学徒勤労働員」）。昭和 20 年（1945 年）には、国民学校高等科（今の中学 1・2 年生）の生徒たちまでもが、授業の代わりに食料や兵器の増産のために、働くことが求められた。



「集団学童疎開 ー戦火を逃れてやって来た子どもたちー」

空襲にそなえ、東京、名古屋、大阪など大都市の子どもたちは、学校ごとに比較的
安全な地方にまとまって移動し、生活することになった（「集団学童疎開」）。

昭和 19 年（1944 年）に大阪市内から、集団学童疎開児童の 1 万人以上が、子ども
たちは家族と別れて、友達や学校の先生とともに、滋賀県にやってきた。戦後、大阪
へ帰った疎開児童を待っていたのは、空襲で焼けてしまった大阪のまちだった。



○関連展示

収蔵展示スペースでは、「県民の方から寄贈いただいた軍装品」を開催した。貴重な軍服や出征幟をはじめ、当時の雑誌を一部紹介した。



第10回企画展示「収蔵品が語る戦時の想い」



第10回企画展示

- 会期 平成27年(2015年)1月7日～6月21日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 平成26年度新規収蔵資料展
- 開催趣旨と概要

平成27年(2015年)は、昭和の15年にわたる戦争の終結から70年にあたる。滋賀県では、約20年前から、ご遺族をはじめ平和を願う県民の方のご協力のもとに、当時の資料の収集・保存を続け、それらの資料にまつわることがらを聴きとりしてきた。これらの資料一つひとつには「語り」がある。人びとを〈護る〉、出来事や想いを〈記す・伝える〉、見送る人びとの〈祈り〉を表し、戦時を生きた人びとの思いがある。これら資料の「語り」に耳をかたむけ、平和の大切さを考えていくことをねらいとした。



第10回企画展示チラシ 表面



第10回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「護る」

人間の命をかけた戦場で、死に直面しながら生き残ることができた人びと、生きて帰ることのできなかつた多くの人びとがいた。兵士らが身につけていた軍装品には、その人の命をかけた証が刻まれている。



戦地に行くまで



戦地



「記す・伝える」

書き綴られた手紙やはがきは、遠く離れた家族・友人の想いや生きている証を届けた。また日々の出来事をつぶさに記録した日記や写真は、日常の中に戦争があったことを今に伝えている。当時を記録した資料は、個人や地域の出来事、人びとの想いを伝えている。



手紙を読む



戦争が終わっても



アルバム



「祈る ー遺された資料からー」

戦地へ向かう人を見送る人びとは、彼らが無事に故郷へ帰ってくることを祈った。また戦地で倒れた人だけでなく、帰りを待っていた人びとも戦争の犠牲になった。遺された資料から、かつて使っていた人の面影や家族の想い、そして平和の大切さを語りかけている。



遺された資料



祈り



○関連展示

収蔵展示スペースでは、資料収集の喚起を狙いとして、平成 26 年度に県民の方から寄贈いただいた資料の一部を紹介した。資料は、軍服や勲章など軍隊にまつわるものから、家族からの手紙、空襲に備えたであろう防火弾など多様である。



(2) 特別企画展示

第3回特別企画展示 「故郷（ふるさと）」

- 会期 平成26年（2014年）4月1日～平成27年（2015年）3月22日
- 会場 滋賀県平和祈念館エントランス
- 開催趣旨

滋賀は、美しい琵琶湖、人びとの住む里、そしてこれらを取り巻く自然と人びとが共存してきた。その結果、自然と人びとの生活とが一体となり、湖国の風景が形作られてきた。これらの風景は、戦争で故郷を離れなければならなかった多くの人びとの心のよりどころとなり、厳しい時代のなかでも故郷や家族への想いは失われなかった。本展示では、昭和のはじめに撮影された故郷の情景から、おだやかだった日常の生活にも戦争の影響があったことを、改めて見直すきっかけづくりをねらいとした。



第3回特別企画展示

(3) 地域交流展示

プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ ー約束の星を見上げて」パネル展

○会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～9 月 28 日

○開催趣旨

平和を祈念する日事業「戦争のこと おしえて」のプログラム「プラネタリウム番組『戦場に輝くベガー約束の星を見上げて』」の関連イベントとして、戦時下における星の役割やプラネタリウム番組で描かれた戦時中における星を使用した作業（「高度方位暦」の計算）などについて、パネルで紹介した。



プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ
ー約束の星を見上げて」パネル展

「アニメーション原画展」

○会期 平成 26 年（2014 年）10 月 4 日～12 月 21 日

○開催趣旨

平成 25 年度に小中学校向けの平和学習教材として制作したアニメ画入りの戦争体験者証言映像をより広く県民の皆さんに知ってもらおうと、映像作品で使用したアニメ画の原画を展示した。同時に視聴スペースを設けて映像の視聴も可能とした。



アニメーション原画展

「ピースメッセージ展」

○会期 平成 27 年（2015 年）1 月 7 日～（2 月 1 日から 2 階ギャラリーで展示）

○開催趣旨

平成 26 年（2014 年）9 月～12 月の間に当館で来館学習をした児童・生徒たち 1,859 人に「ピースメッセージ」と題して、平和への思いや感想を自由に書いてもらったものを展示した。



ピースメッセージ展

「戦時をふりかえり、平和をねがう作品展」

○会期 平成 27 年（2015 年）2 月 1 日～3 月 22 日

○開催趣旨

戦時の出来事を語りつぎ、平和を願う心を育むことの大切さを平和祈念館のある愛東地区から発信することをねらいとして、東近江市の愛東地区に在住、在勤の方が、「戦時に思いをはせ、平和へのねがい」を絵画や書道、詩などで表現した作品や愛東地区の小中学生が平和への願いを込めてかいた絵やメッセージなどを展示した。



戦時をふりかえり、平和をねがう作品展

(4) その他の展示

「奉安庫」常設

- 会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～
- 展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 研修室横壁面
- 開催趣旨

当館の新たな常設展示資料として、大津市立上田上小学校より寄贈いただいた奉安庫を設置した。戦前の学校では、明治の終わり頃から、紀元節、天長節、新年、明治節の国家祝賀式典には、宮内省から各学校に貸与された天皇と皇后の写真（以下、「御真影」）に最敬礼し、「教育勅語」を奉読する儀式が執り行われていた。この儀式の際に使用する「御真影」と「教育勅語」を納める奉安所として、各学校の講堂や校長室などに奉安庫が設置された。

大津市立上田上小学校の奉安庫は、昭和 8 年（1933 年）10 月 7 日に竣工された講堂に設置されていたが、昭和 58 年（1983 年）、講堂が老朽化のために解体された際に奉安庫の枠のみ取り出し、校舎の階段の踊り場に移設された。平成 25 年（2013 年）には、設置されていた校舎の改修が決まったため、当館へ寄贈いただいたものである。



奉安庫展示

「平和をねがう子どもピースメッセージコンクール作品展」

- 会期 平成 26 年（2014 年）11 月 1 日～平成 27 年（2015 年）1 月 31 日
- 展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 ギャラリー
- 開催趣旨

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、広く県民に平和への思いを伝えることを目的としてコンクールを実施した。優秀作品 6 作品を含む応募のあったすべての作品を展示した。



ピースメッセージコンクール作品展

「東大津高等学校書道部作品展」

- 会期 平成 27 年（2015 年）1 月 16 日～3 月 15 日
- 展示場所 滋賀県平和祈念館 1 階 エントランス
- 開催趣旨

平成 26 年（2014 年）11 月に同校で出前授業を実施したことがきっかけで実現したもので、出前授業で学んだことを受けて、書道部の生徒のみなさんが平和への願いを「書」にして表現してくれた作品を展示した。



東大津高等学校書道部作品展

「子ども学習成果展」

○会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～10 月 31 日

平成 27 年（2015 年）2 月 1 日～

○展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 ギャラリー

○開催趣旨

来館学習や出前学習で学習したことや各学校で行われた平和学習の成果物、実践事例などを展示した。



子ども学習成果展

2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査

戦争体験者の方の高齢化が進む中、一人でも多くの方の体験を記録として残すことが急務となっている。当館では、戦争当時滋賀県にお住まいだった方、あるいは滋賀県にご縁のあった方を対象に、調査員2名を配置して戦争当時の話の聞き取り調査を行った。平成26年度は120名から体験談を聞き取りした。

～平成26年度戦争体験聞き取り調査事例～

日野町にあった中部第三百三十六部隊地区防衛隊に入隊

古道 由男さん（88才）＝日野町＝

古道由男さんは、満洲にあこがれ、尋常高等小学校の高等科2年を卒業し、満蒙開拓青少年義勇軍に入ろうと願書を出しました。しかし、お兄さんの説得を受けてやめることとなります。由男さんは、お父さんを手伝って農業をしていましたが、その当時義務になっていた青年学校に週2回は行かねばなりませんでした。そして、お兄さんは昭和18年（1943年）1月現役入隊しますが、4月には部隊がフィリピンに移動していきます。

昭和20年（1945年）5月、満18歳になった由男さんは徴兵年齢が下げられていたため、臨時教育召集を受け、伏見の連隊に入隊します。当時、入隊は極秘に行うように言われていましたので、役場の吏員と共にひっそりと故郷を後にしました。入隊期間は一月ほどでした。しかし除隊の時、上官が「またすぐ召集があるからそのつもりでいよ」と言ったことを今もはっきりと由男さんは覚えています。その言葉通り、除隊後まもなくして臨時召集令状が来ました。入隊先は、中部第三百三十六部隊地区防衛隊でした。それは、日野警察署の中にありました。臨時教育召集中に一等兵に昇進していた由男さんの任務は、新兵の教育でした。入隊してきた新兵は、これまで軍隊経験のない36歳から42歳までの人達でした。「一応、基礎教育は習っているので教えられるけれど、何にも知らん人、親ほど違う人に何にもできませんわな。困りましたわ。」由男さんのその当時の本音です。新兵たちの日課は、銃も持たずに野外での散兵戦や夜間演習などの訓練でした。その指導に、上官と共に由男さんは当たりました。その訓練も一月ほどで終わり、由男さんたちには自宅待機と言う命令が出ました。小銃と実弾を持って家に帰ることになりました。

「菊の御紋がついてますねん。ボーンとね。どこやし置けんので、床の間に置いときましたわ。」

由男さんはそのまま昭和20年8月15日の終戦を迎え、まもなく銃器を返納しました。終戦になっても何の音沙汰もなかったお兄さんは、昭和19年の10月23日にレイテ島で戦死していました。戦死公報が届いたのは、昭和22年（1947年）の8月10日でした。

(2) 収集資料の保存・整理

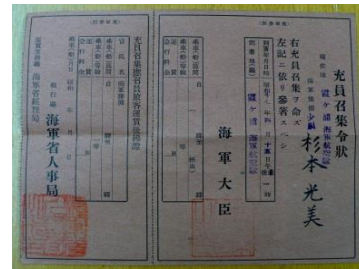
滋賀県では、平成5年より、戦争体験にまつわる資料や戦争当時の滋賀県に関連する資料の収集を行ってきたが、平成26年度は新たに3,222点の資料を収集した。

寄贈資料は、各家庭で長期間置いておかれたものが多く、保存状態もまちまちである。現在の状態をこれからも保ち、次世代へ伝えていくために、適切な保存作業を日々行っている。

平成26年度収集資料（一例）



日の丸の寄せ書き
彦根市 河合良子さん提供



充員召集令状（海軍）
大阪市 中谷 薫さん提供



奉公袋
高島市 澤井一也さん提供

3 普及啓発事業

(1) 平和学習講座

【前期】「学徒出陣」研究－戦時に青春を生きた学生と大学－

○開催日時

平成 26 年（2014 年）5 月 10 日、6 月 14 日、7 月 12 日 各回とも 13:30～15:00

○講座内容および受講者数

第 1 講 戦時下の大学	42 名
第 2 講 「学徒出陣」、その制度と実態	37 名
第 3 講 学徒兵たちの資料を読む	46 名

○事業概要

京都大学 大学文書館の西山 伸教授を講師に迎えて、「『学徒出陣』－戦時に青春を生きた学生と大学－」と題し、全 3 回の連続講座として開講した。講座では、「学徒出陣」の制度や「戦争と大学」の概略、さらには当時の日記や回顧録といった資料から、学徒兵たちの戦争に対する考えや彼らが抱えた葛藤などについて紹介、説明いただいた。



平和学習講座【前期】の様子

【後期】生活の中から戦時を考える

○開催日時

平成 26 年（2014 年）10 月 25 日、11 月 22 日、12 月 20 日 各回とも 14:30～16:00

○講座内容および受講者数

第 1 講 日常の中の戦時動員－婦人活動家を中心に	22 名
第 2 講 戦時への想像力－博物館展示の舞台裏から	28 名
第 3 講 国境の狭間に置かれた人びと －アメリカの日系人・日本人にとっての太平洋戦争	35 名

○事業概要

国立歴史民俗博物館の原山 浩介准教授を講師に迎えて、「生活の中から戦時を考える」と題し、全 3 回の連続講座として開講した。講座では、奥むめおや平塚らいてうといった婦人活動家の視点からの「戦時」や真珠湾攻撃について当時の

日本から視点に加えて、ハワイにいた日本人・日系人からの視点を紹介していただき、様々な視点で歴史をとらえることの大切さ説明いただいた。



平和学習講座【後期】の様子

(2) 戦争体験を聞く会

【平和を祈念する日事業関連】

○開催日時

平成 26 年（2014 年）8 月 13 日、8 月 14 日、8 月 15 日

13, 14 日は 10:30～12:00、15 日は 10:30～11:50 と 13:00～14:00 の 2 回開催

○語り部、内容および参加者数

月日	語り部	内 容	参加者
8 月 13 日	竹村 元伸さん	満州へ、そして故郷に帰るために生き続けた日々	65 名
8 月 14 日	福井 弘一さん	海軍特別年少兵に志願して	47 名
8 月 15 日 (午前)	脇坂 利一さん	潜水艦乗員から水上特攻隊員へ	97 名
8 月 15 日 (午後)	武田 倫江さん	戦争の絵を描くと、「◎(二重マル)」でした	63 名



「戦争体験を聞く会」（「平和を祈念する日事業」関連）

【戦争遺跡見学フィールドワーク関連】

- 開催日時 平成 26 年（2014 年）10 月 18 日 11:30～12:30
- 語り部 松村 武温さん
- 内容 幼き日の暮らしと米原への空襲
- 参加者 25 名



「戦争体験を聞く会」（フィールドワーク関連）

【開館 3 周年記念事業関連】

- 開催日時 平成 27 年（2015 年）3 月 14 日 13:30～15:30、3 月 15 日 10:00～12:00
- 語り部、内容および参加者数

月日	語り部	内 容	参加者
3 月 14 日	服部 日出男さん	海軍での生活、家族の絆	65 名
3 月 15 日	西川 新五良さん	中国従軍体験記	58 名



「戦争体験を聞く会」（「開館 3 周年記念事業」関連）

○事業概要

平成 26 年度は、8 月の「平和を祈念する日事業」、10 月の「戦争遺跡見学フイ

ールドワーク」、そして3月の「開館3周年記念事業」のプログラムとして、7名の語り部の方を迎えて「戦争体験を聞く会」を開催した。戦時の体験を持つ方が少なくなる中、体験者ご本人から戦地や軍での生活、あるいは子どもの視点から見た当時の様子など、貴重なお話を聞くことができた。

(3) 戦争遺跡見学フィールドワーク「米原蒸気機関車避難壕の見学」

○開催日時 平成26年(2014年)10月18日 10:00~12:30

○参加者 25名

○事業概要

米原市岩脇まちづくり委員会の藤本伝一さんの案内のもと、米原市岩脇地区の蒸気機関車避難壕の見学会を開催した。またフィールドワークとあわせて、戦時中、米原への空襲を経験された松村武温さんを語り部として迎え、「戦争体験を聞く会」を現地で開催した。



蒸気機関車避難壕見学の様子

(4) 平和を祈念する日事業「戦争のこと おしえて」

○開催期間 平成26年(2014年)8月11日~17日

○参加者 延べ1,645名(開催期間中の来館者)

○事業概要

8月11日~17日の期間、「平和を祈念する日事業『戦争のこと おしえて』」として、様々なプログラムを開催した。

8月13日~15日にかけては、4人の戦争体験者の方を迎えて「戦争体験を聞く会」を開催した。また終戦の日にあたる15日は、開館時間を20時まで延長し、日本よし笛の会のみなさんによる「平和のしらべコンサート」やボランティアのみなさんの協力のもと、紙芝居・人形劇の上演、戦時食(すいとん)の試食など、1日を通して様々な催しを実施したほか、夜には、子どもたちが平和へのねがいをこめて作ってくれた約450個のあんどんを1階ロビーに並べて、一つひとつにあかりを灯した。

平和を祈念する日事業

平成26年 8月11日(月)～17日(日) 滋賀県平和祈念館

終戦から69年。戦争体験者が年々少なくなってきました。
滋賀県平和祈念館に来館して、戦時のことを学んでいただき、
平和へのねがいを語りつくことの大切さを感じてください。

<p>8月13日(水) ★10時30分～12時</p> <p>戦争体験を聞く会 竹村元伸氏 (84歳) 『湖州へ、そして故郷に帰るために生き続けた日々』</p> <p>★14時～15時 プラネタリウム番組 『戦場に輝くべが』 ～約束の星を見上げて～上映</p> <p>8月15日(金) <20時まで開催しています> ★10時30分～11時50分 戦争体験を聞く会 脇坂利一氏 (89歳) 『潜水艦乗員から水上特攻隊員へ』</p> <p>★13時～14時 戦争体験を聞く会 武田倫江氏 (78歳) 『戦場の絵を描くと、〇(に重マル)でした』</p> <p>★17時20分～18時 人形劇・紙芝居 平和祈念館ボランティアの会で制作した「人形劇・紙芝居」を上演</p> <p>★19時～20時 プラネタリウム番組 『戦場に輝くべが』 ～約束の星を見上げて～上映</p>		<p>8月14日(木) ★10時30分～12時</p> <p>戦争体験を聞く会 福井弘一氏 (84歳) 『海軍特別年少兵に志願して』</p> <p>★14時～15時 高橋道氏の講座 『へがのなはし』 ～約束の星を見上げて～上映</p> <p>★15時30分～18時30分 プラネタリウム番組 『戦場に輝くべが』 ～約束の星を見上げて～上映</p> <p>★16時～18時50分 公開「平和学習授業」 新作デジタルアニメの上映を含め、日頃平和祈念館が行っている児童生徒向けの講座を公開します。</p> <p>★18時～19時 戦時食 (50食を準備します) 平和祈念館ボランティアの会が「戦時食」を提供します。</p> <p>★18時30分頃～ 「日本よし笛の会」による ♪平和のしらべ♪コンサート</p>
---	---	---

会場：滋賀県平和祈念館(東近江市下中野町 4 3 1 番地)
電話：0749-46-0300 ファックス：0749-46-0350
メール：heiwai@pref.shiga.jp (お問い合わせは、上記までご連絡下さい。)

戦争体験を聞く会 (開催日時順)

かんバッジ つくります

この円の大きさの紙に好きな絵を描いて、8月15日の18時から19時にカウンターまで持ってきてください。
※ひとり一個

『戦場に輝くべが』～約束の星を見上げて～
今から70年ほど前、夜空の星が武器になった時代がありました。天文航法で陸上爆撃機「銀河」を導く若き偵察員・和夫と、その元データとなる高度方位層をつくる女学生の久子。はなればなれの2人をつなげた約束の星・べがは、今でもかわらずに夜空で輝き、私たちに何かを伝えていただいています。

紙芝居・人形劇

平和や戦争をテーマにした紙芝居や人形劇を制作し、平和祈念館内はもとより県内外で幅広く団体などに上演しています。お子さまご一緒にご家族でご覧いただき、今の生活と比べて、何かを感じ取っていただければ幸いです。

「日本よし笛の会」による ♪ 平和のしらべ ♪ コンサート

「よし笛」は、湖や川などの水辺で風をそよんでいる植物の「よし」でつくられていて、とても自然な音色を響かせる楽器です。
「日本よし笛の会」は、「よし笛」の混んだ音色を多くの人に届けたい気持ちになってきたことから、地域の行事やふれあいサロンなどで、ボランティア活動に取り組んでいるグループです。

8月15日には、戦争当時の歌から今の子どもたちにもなじみの深い歌まで、様々な年代の方々がお楽しみ曲をさいいただき、平和を願う気持ちを高めていただこうと思っています。

イベントチラシ



戦争体験を聞く会 (語り部：脇坂 利一さん)



公開平和学習授業



平和のしらべコンサート



平和のあかり点灯

(5) プラネタリウム番組「戦場に輝くベガー約束の星を見上げてー」

- 上映期間 平成 26 年 (2014 年) 8 月 11 日～17 日 (延べ 11 回上映)
- 参加者 延べ 450 名
- 事業概要

8 月 11 日～17 日の期間、平和を祈念する日事業「戦争のこと おしえて」の一環として、プラネタリウム番組「戦場に輝くベガー約束の星を見上げてー」を上映した。番組の内容は、戦時中に夜空に輝く星が戦争に利用されていたことを取り上げたもので、「星が武器としてではなく、希望の光として輝ける日が来ることを祈った若者たちのお話」として構成されたものである。

本番組は、平成 18 年 (2006 年) に山梨県立科学館で制作されたもので、平成 26 年 (2014 年) に制作されたリメイク版では、スクリーンなどの平面に投影できるように、プラネタリウム設備を持たない当館においても上映することが可能となった。

The image shows two promotional posters for the planetarium program. The left poster features a dark blue background with a silhouette of a person looking up at a starry sky. Text includes '滋賀県平和祈念館にプラネタリウムがやってくる!', '戦場に輝くベガ', '約束の星を見上げて', and '星が武器としてではなく、希望の光として輝ける日が来ることを祈っています。' The right poster is more detailed, with the title '戦場に輝くベガ' and '約束の星を見上げて' in large characters. It includes a photo of a soldier and a woman, and a table of showtimes. At the bottom, it lists the dates '平成26年 8/11(月)～8/17(日)' and the venue '滋賀県平和祈念館'.

イベントチラシ

(6) 星と科学のお話「ベガのはなし ―織り姫星の輝きが教えてくれるもの」

- 開催日時 平成 26 年（2014 年）8 月 14 日 14:00～15:00
- 参加者 45 名
- 事業概要

8 月 10 日から 17 日の間、当館で上映したプラネタリウム番組「戦場に輝くベガ―約束の星を見上げて」の関連イベントとして、多賀町にあるダイニック・アストロパーク天究館の高橋進館長を講師に迎えて、特別講演を開催した。

講演では、夜空に輝くベガに関する話から七夕の由来や滋賀県にまつわる七夕伝説、さらには、現代において人工衛星が軍事利用されている状況などについてお話しいただいた。



講演会の様子

(7) 開館 3 周年記念事業

- 開催期間 平成 27 年（2015 年）3 月 14 日、3 月 15 日
- 参加者 延べ 370 名（開催期間中の来館者）
- 事業概要

開館 3 周年を記念して 3 月 14 日、15 日の 2 日間にわたって、「戦争体験を聞く会」や映画の上映会、当館職員による平和学習支援や戦争体験聞き取り調査の活動報告会など様々なプログラムを開催した。また、当館のボランティアによる戦時食の提供や劇の発表、手紙解読や聞き取りの活動報告など日ごろの活動成果を発表いただいた。

開館から三年
をむかえます

滋賀県平和祈念館

テーマづくり 平和へのわがいののもと、戦争体験者協会や館の活動報告、ボランティア活動の発表などを行います。

滋賀県平和祈念館は、平成24年(2012年)3月17日に開館しました。

3月14日(土曜日)

映画会 10時～12時
「命のビザ」
(外交官杉原千敏の物語)

<昼>平和祈念館ボランティアによる
戦時食の提供
「紙芝居・人形劇グループ」の発表

戦争体験を聞く会
13時30分～15時30分
服部日出男さん(昭和2年生まれ)
「海軍での生活、家族の絆」

会場：滋賀県平和祈念館
(東近江市下中野町431番地)
お問い合わせは滋賀県平和祈念館まで。
電話：0749-40-0300
ファックス：0749-46-0350
メール：heiva@pref.shiga.lg.jp

3月15日(日曜日)

戦争体験を聞く会 10時～12時
西川新五良さん(大正12年生まれ)
「中国従軍体験記」

<昼>平和祈念館ボランティアによる
戦時食の提供

活動報告会 13時30分～14時30分
平和祈念館職員
「小学校への平和学習支援」
「戦争体験聞き取り調査」

活動発表会 14時45分～16時
平和祈念館ボランティア
「手紙等解読グループ」より
「聞き取りグループ」より
「紙芝居・人形劇グループ」より

「戦時をふりかえり、
平和をねがう作品展」
開催中(2月1日～3月22日)

戦争体験を聞く会

○3月14日(土)13:30～15:30
服部日出男 さん(昭和2年生まれ 長浜市在住)
「海軍での生活、家族の絆」

服部さんは、昭和18年、16歳で海軍航空隊に入隊しました。終戦までの二年間、特攻精神の教育による猛訓練を受け、特に後半の中国の青島海軍航空隊での訓練は、徹底して「死をもって国に報い、死なばとも」に生活でした。一方、お母様は故郷で、服部さんの無事を祈り続けたのです。

○3月15日(日)10:00～12:00
西川新五良 さん(大正12年生まれ 近江八幡市在住)
「中国従軍体験記」

西川さんは昭和19年に現役兵として、敢闘連隊に入隊しました。中国で初年兵教育を受けて陸軍二等兵となり、長江を船で武昌まで行き上陸。そして、嵐部隊の後続に掃部隊として出発、前線へと行軍を続けました。

最前線の宝慶に到着した後、憲兵教育隊に入り憲兵上等兵を拝命。宝慶憲兵隊に1か月勤務後、長沙の憲兵隊に勤務中、終戦を聞ききました。

映画会 「命のビザ」 六千人のユダヤ人を救った日本領事の決断

原作:杉原幸子
出演:加藤剛 秋吉久美子 紺野美沙子
時間:115分

あらまし: 1940年、ナチスドイツ連が対峙する戦乱の北ヨーロッパ、バルト海沿岸のリトアニアにはユダヤ難民が溢れ、救われたい。彼への脱出の唯一の希望は、日本領事のビザ。日本領事・杉原千敏は本省や周囲の反対をおして、人間の命のために、ビザ発行の決断をする。極限状況の中で、人のあるべき道を実行した勇気ある日本領事のドキュメンタリードラマ。

戦後70年 特別講演
「戦後70年に語ること」
講師: 田原総一朗氏
日時:平成27年 5月23日(土)14時より
場所:愛東コミュニティセンター(祈念館となり)

- 名神高速道路「八日市IC」から車で約10分
- JR琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ

イベントチラシ



館職員による活動報告会



ボランティアによる人形劇の上演



ボランティアによる戦時食の提供



ボランティア活動発表会

(8) 館長講座「自分史づくり講座」

- 開催日時 毎月第3水曜日 14:00～15:30
- 参加者 延べ54名
- 事業概要

平成24年(2012年)7月から、自分史づくりをサポートする館長講座「自分史づくり講座」を月1回開催している。講座では、受講者自身が書き進めている自分史の原稿を持参し、館長が文章の表現方法など具体的な助言を行っている。

(9) 館長講座「自分史のすすめ」

- 開催日時 平成26年(2014年)9月6日 13:30～15:00
- 参加者 18名
- 事業概要

当館では、毎月「自分史づくり講座」を開講しており、自分史の原稿作成に対する具体的なアドバイスをするという形式で講座が進められている。一方で、「自分史づくりに関心があるが、何からどう始めていいかわからない」といったニーズが寄せられていることを受け、館長講座「自分史のすすめ」では、自分史をつくる楽しさをより多くの方に伝えることを目的として開催した。

館長講座 滋賀県平和祈念館

「自分史」のすすめ

あなたの人生の記憶を歴史にする、それはあなたです

自分史とは、自分の記憶をたよりに、自分のことばで、自分の生きてきた時代の記憶をつづることです。

一人ひとりの人生は、かけがえのないものです。また、昭和の前半を生きた人は、その記憶を確かめつつ、それを次の世代に伝える義務があるとも考えられます。しかし、自分の人生や生きてきた時代の記憶を伝承する場はどこにあるのでしょうか。平和祈念館では、毎月「自分史づくり講座」を実施し、みなさまの自分史づくりをお手伝いしています。今回の講座では、自分史をつくる楽しみをより多くのおみなさまにお伝えしたいと思います。

滋賀県平和祈念館長 磯行

日時：平成26年 9月6日(土) 13時30分～15時30分
場所：滋賀県平和祈念館

平和祈念館では、毎月第3水曜日の14時から15時30分まで「自分史づくり講座」を実施しています。申込は随時受付しています。電話、FAXまたはE-mailで、氏名・住所・電話番号をご連絡ください。

滋賀県平和祈念館
東近江市下中野町431番地
電話：0749-46-0300
ファックス：0749-46-0350
メール：heiwapref.shiga.lg.jp

- 近江鉄道線「八日市駅」から車で約10分
- JR 琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ



講座の様子

講座チラシ

(10) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」

- 開催日時 1回目：平成26年（2014年） 6月1日（日） 9:45～12:00
 2回目：平成26年（2014年）10月12日（日） 9:15～12:00
- 参加者 1回目：14家族41名
 2回目：10家族34名
- 協力 平和祈念館ボランティア戦時食グループ
- 事業概要

1回目は、あいとうマーガレットステーション隣接農園でサツマイモの苗植えを行った後、戦時中に食べられた野草を祈念館駐車場付近で観察し、摘み取った野草のしおり作りを行った。また、最後に戦時食ボランティアの方が作った戦時のおやつを試食した。2回目は、サツマイモを収穫し、採れたサツマイモで戦時食を作るワークショップを行った。



サツマイモの苗植え



サツマイモの収穫



しおり作り



戦時食作り

(11) 夏休みミュージアムスクール「へいわの学校☆あかり」

- 開催日時 平成 26 年（2014 年）7 月 23 日、27 日、8 月 2 日、3 日、5 日、9 日の 6 日間
- 参加者 延べ 91 名
- 事業概要

①「館長と創造カード（カルタ）で遊ぼう」（7 月 23 日）

創造カードは絵の描かれた 2 枚のカードの共通点を見つけ出し、それを説明するゲームのことで、知恵はもちろん、ひらめきや柔軟な発想が試され、物事を一方向だけでなく、幅広く多角的に見ることができるようにと実施した。（参加者 3 名）



創造カード（カルタ）遊びの様子



創造カード（カルタ）

②「戦時食（すいとん）を作って食べよう」（7 月 27 日）

平和祈念館ボランティア戦時食グループの協力のもと、戦時中に食べられたすいとんを作り試食するワークショップを実施した。（参加者 13 名）



調理体験（ワークショップ）の様子



戦時食ボランティアによる説明を聞く参加者

③「米原、蒸気機関車避難壕を見学しよう」(8月2日)

県内に残る戦争遺跡にふれる事業として、岩脇まちづくり委員会の藤本伝一さんの案内で米原市岩脇の蒸気機関車避難壕を見学した。(参加者 15名)



避難壕見学



岩脇まちづくり資料館見学

④「戦争体験者お話し会～大阪から来た女の子～」(8月3日)

戦時中、大阪から滋賀への集団学童疎開を経験された池田喬子さんを語り部に迎え、当時の体験を聞く会を実施した。(参加者 21名)



戦争体験者お話し会の様子

⑤「戦争体験者お話し会～8月6日の思い出～」(8月5日)

広島で原子爆弾投下後すぐに現地に入り救助活動をされた喜多康巳さんを語り部に迎えて当時の体験を聞く会を実施した。(参加者 24名)



戦争体験者お話し会の様子

⑥「平和の願いをこめて アロマキャンドルをつくろう」(8月9日)

当館で平和学習を行った後、菜の花館で平和への思いを込めてアロマキャンドルを作るあいとうエコプラザ菜の花館との協働事業を実施した。(参加者 15名)



アロマキャンドル作り



菜の花館見学の様子

(12) 平和を願う子どもピースメッセージコンクール

○展示期間 平成 26 年 (2014 年) 11 月 1 日～平成 27 年 (2015 年) 1 月 31 日

○表彰式 平成 26 年 (2014 年) 11 月 1 日

○事業概要

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、広く県民に平和への思いを伝えることを目的として実施した。今回、県内の小学校 5 年生から中学生を対象に作品を募集したところ、県内小・中・特別支援学校 14 校から 233 作品の応募があった。

○入賞者

各 賞	学校名	学 年	氏 名
ピース賞 (小学校)	彦根市立城南小学校	第 6 学年	森 陽茉莉
ピース賞 (中学校)	東近江市立聖徳中学校	第 1 学年	伊藤 優月
ハート賞 (中学校)	近江八幡市立八幡西中学校	第 2 学年	浅田 陽菜
ハート賞 (中学校)	湖南市立石部中学校	第 2 学年	吉田 愛
オリーブ賞 (中学校)	草津市立新堂中学校	第 3 学年	村田 雄偉
オリーブ賞 (中学校)	滋賀県立水口東中学校	第 3 学年	佐井 愛佳

※賞について

ピース賞・・・滋賀県平和祈念館の理念と合致していることや祈念館の事業を推進するうえで効果的な作品

ハート賞・・・制作者の平和への思いを画面に意欲的に工夫し、効果的に表現している作品

オリーブ賞・・・平和への思いを自分らしい発想や構想で表現し、線画や色使いの技能が優れている作品

各 賞	作 品	制作者の思い
ピース賞 (小学校)		<p>私は、平和＝笑顔だと思ったから、この町も平和になってほしいと思って、明るい絵を描きました。</p>
ピース賞 (中学校)		<p>地球の平和を大切にしてほしいという願いを込めて描きました。</p>
ハート賞 (小学校)		<p>戦争は昔のことだからといって、知らず知らずのうちに目をそらしてはいませんか。今でも世界中で戦争がくり返されています。見つめ直してください。</p>
ハート賞 (中学校)		<p>武器が花にうもれて、戦争や戦いがなくなる様子を表現しました。花が美しく見えるように描きました。</p>
オリーブ賞 (中学校)		<p>世界に平和を届けるために白いハトがはばたいている様子を絵に表わしました。</p>
オリーブ賞 (中学校)		<p>平和の象徴とされる鳩をメインに、世界中が平和になるように、また、鳩がくわえている国旗は、それぞれの国が協力しあって争いがなくなるよう願って描きました。</p>

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習の支援

○来館学校数 実績

区分	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	46校	40校	5校	1校
児童・生徒数	2,281人	1,960人	258人	63人

○主な方法

- ・ 展示見学
(学校が作成するワークシートによる調べ学習)
- ・ 館の職員によるミニ講座
- ・ 戦争体験者によるお話会
- ・ 戦時食体験



来館学習での展示見学

(2) 出前授業

○出前授業実施校 実績

区分	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	59校	38校	14校	7校
児童・生徒数	6,251人	3,490人	1,632人	1,129人

○主な方法

- ・ 実物や写真・動画の提示
- ・ 体験談の紹介
- ・ 資料観察



出前授業の様子

(3) 地域への平和学習支援

戦後 70 年近くが経過し、戦争を体験していない大人が増え、「子どもたち」とともに「大人」への語り継ぎが重要になることを踏まえて、地域の自治会などの団体等からの要望に応じた平和学習支援として、地域への出前講座を実施した。平成 26 年度においては、29 団体 1,537 人の利用があった。

○主な内容

- ・「戦争と生活の変化」
- ・「子どもたちと戦争」
- ・「滋賀県への空襲」



地域への出前講座の様子

(4) 資料の貸出による平和学習支援

滋賀県平和祈念館では、学校や地域への平和学習を支援するために、実際に手にとって触れるハンズオン資料やパネル、アニメ画入りの戦時体験映像の貸出を行っている。平成 26 年度は、新たに一般貸出向けの戦争体験者証言映像を 3 作品（6 人の戦争体験証言）制作し、貸出を開始した。貸出の傾向としては、学校向けは授業で使うハンズオン資料や視聴覚資料の貸出が多く、一般向けは特に夏の時期にパネルの貸出が集中する。

○資料貸出の実績

①学校への貸出および活用児童・生徒数

区分	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	120 校	64 校	54 校	2 校
児童・生徒数	1,332 人	702 人	492 人	138 人

②地域への貸出 41 件

○貸出資料の種類

①ハンズオン資料

千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなご採り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）

②パネル

Aセット（16 枚組）、Bセット（20 枚組）

Cセット（16 枚組）＜滋賀で学ぶ戦争の記録＞、写真・ポスター類（64 枚）

③小学校国語科読み物教材「ひとつの花」対応セット

④視聴覚資料

新 戦争体験者証言映像「戦争証言」

- ・「戦場の少年－戦時下の子ども達」
- ・「特攻－死を命ぜられた青春」
- ・「終戦－その時満州では」

小中学校向けアニメ画入りの戦争体験証言映像

- ・「大阪から来た女の子」
- ・「滋賀県満州報国農場の若者たち」

滋賀県民の戦争体験証言ビデオ「記憶の湖（うみ）」

その他、戦争や平和に関するビデオ・DVD

(5) 戦争体験者証言映像の制作

戦争体験者の話を映像として記録・保存するとともに、広く県民に戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶための映像教材として制作した。制作内容は「戦場の少年－戦時下の子ども達」「特攻－死を命ぜられた青春」「終戦－その時満州では」の3作品で、各作品に2人ずつ証言者が登場し体験を語る内容である。平成27年度には、地域交流室での展示で上映するとともに、貸出資料として活用したり、ホームページ「しがけんバーチャル平和祈念館」上で視聴できるようにする予定である。

作品名	証言者	メディア	時間
戦場の少年－戦時下の子ども達	野村 和男氏	DVD Blu-ray	23分
	武田 倫江氏		
特攻－死を命ぜられた青春	細井 巖氏		20分
	近藤 伊助氏		
終戦－その時満州では	大野 貞雄氏		23分
	小齊 伊佐雄氏		



戦争体験者証言映像「戦争証言」紹介チラシ

5 ボランティア活動支援事業

当館では、開館に先立って平成 23 年度より当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。平成 26 年度においては、新たにボランティア登録の申込があった方を対象とした「ボランティア登録講座」を 2 回開催（4 月、7 月）し、5 名の方が新たにボランティア登録をされた。平成 26 年度末現在におけるボランティア登録者数は 59 名で、年齢層は 20 代から 80 代の幅広い世代の方に登録いただいている。

具体的な活動内容としては、平成 26 年度より来館者の案内をボランティア全体の活動として位置づけられたほか、創作紙芝居・人形劇上演活動や戦時食体験活動、戦時中の手紙等を読みやすいよう解説する活動など、各グループの活動が積極的に進められている。また、開館周年記念事業などの館事業への協力や類似施設を訪問する研修会なども継続して行われている。

ボランティアには、今後ともそれぞれの活動を通じて、当館の利用者との交流を図り、さらには、利用者や館とをつなぐ役割を担っていただくことが期待される。当館では引き続き、ボランティアの募集を行うとともに、その活動の支援を行っていく。

○ボランティア活動の紹介

来館者案内活動	館内での来館者との交流や案内をします。
語り部・語り継ぎ部活動	自らの体験や家族や体験者の方々から聞いた話をもとに、戦争体験を語り継いでいく活動をします。
戦時食グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
創作紙芝居・人形劇グループ	平和や戦争をテーマにした紙芝居や人形劇を創作し、上演する活動をします。
手紙等解説グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解説する作業をします。
聞き取りグループ	戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
情報紙制作活動	情報紙「平和の灯」を制作します。
大凧づくりグループ	東近江大凧まつりに向けて、ミニ大凧（2 畳）をつくり、平和への願いや当館の活動を PR します。



ボランティア登録講座



ボランティア研修（広島平和記念資料館）



紙芝居の上演



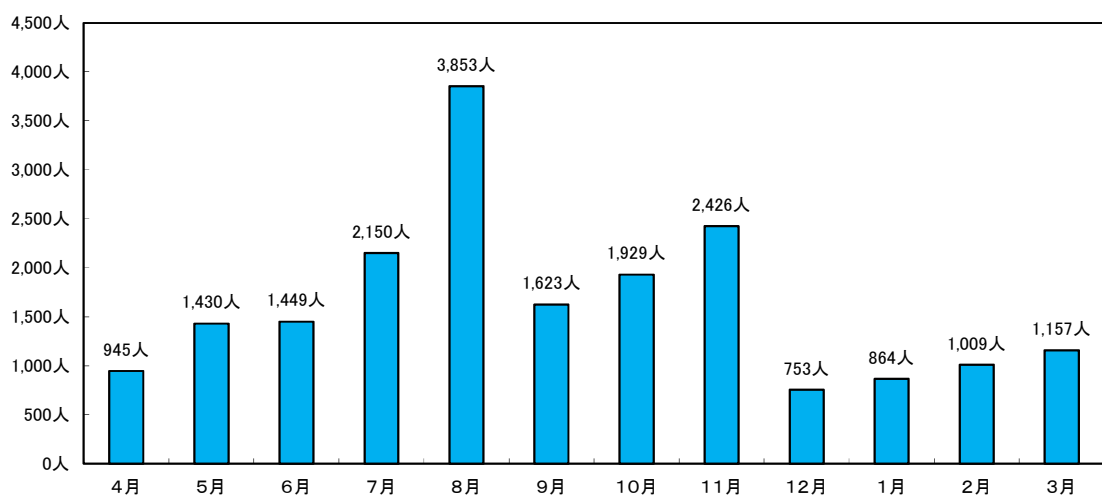
来館者への戦時食の提供

Ⅱ 資料

1 利用状況

(1) 月別来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開館からの 累計
開館日数	22日	25日	18日	26日	31日	22日	21日	24日	15日	20日	20日	21日	265日	803日
来館者数	945人	1,430人	1,449人	2,150人	3,853人	1,623人	1,929人	2,426人	753人	864人	1,009人	1,157人	19,588人	87,203人
1日あたりの 平均来館者数	43人	57人	81人	83人	124人	74人	92人	101人	50人	43人	50人	55人	74人	109人



(2) 来館学校一覧

月	日	学 校 等 名 称	人数
6	13	米原市立伊吹山中学校	53人
		東近江市立市原小学校	17人
	20	東近江市立八日市南小学校	88人
7	3	東近江市立愛東北小学校	24人
		東近江市立愛東南小学校	24人
9	5	私立滋賀学園中学校	69人
	11	東近江市立船岡中学校	82人
	19	東近江市立御園小学校	71人
	25	東近江市立布引小学校	51人
	26	東近江市立蒲生西小学校	77人
10	15	愛荘町立愛知川小学校	60人
	16	東近江市立箕作小学校	79人
	23	愛荘町立愛知川小学校	56人
		甲賀市立伴谷小学校	75人
	24	甲賀市立山内小学校	5人
		甲賀市立鮎河小学校	5人
	28	竜王町立竜王西小学校	47人
	29	東近江市立能登川西小学校	13人
	30	東近江市立湖東第二小学校	32人
	31	東近江市立湖東第一小学校	33人
		多賀町立多賀小学校	60人
11	5	東近江市立八日市北小学校	61人
	6	東近江市立五個荘小学校	134人
	7	東近江市立八日市西小学校	37人
		豊郷町立豊郷小学校	49人
	13	東近江市立能登川西小学校	29人
		愛荘町立秦荘西小学校	32人
	14	東近江市立能登川東小学校	72人
		長浜市立速水小学校	46人
	17	愛荘町立愛知川東小学校	58人
	20	東近江市立愛東北小学校	24人
		東近江市立愛東南小学校	24人
	21	東近江市立湖東第三小学校	40人
	26	東近江市立玉緒小学校	36人
27	東近江市立蒲生北小学校	75人	
28	東近江市立山上小学校	42人	
12	2	草津市立山田小学校	63人
	3	湖南市立下田小学校	42人
	4	東近江市立能登川南小学校	113人
		東近江市立蒲生東小学校	44人
	8	多賀町立大滝小学校	23人
1	9	甲賀市立伴谷東小学校	81人
	30	甲賀市土山ブロック特別支援学級（小学生）	18人
		甲賀市土山ブロック特別支援学級（中学生）	8人
2	12	私立近江兄弟社高等学校	63人
3	19	東近江市立愛東中学校	46人

46校 2,281人

(3) 出前授業実施団体

月	日	学 校 等 名 称	人数
5	21	滋賀県立北大津高等学校	199人
	27	大津市立葛川中学校	4人
6	2	滋賀県立守山中学校	79人
	3	高島市立新旭南小学校	65人
	4	滋賀県立伊吹高等学校	160人
	6	米原市立伊吹山中学校	53人
	11	大津市立南郷小学校	83人
	23	彦根市立平田小学校	45人
	24	滋賀大学教育学部附属小学校	114人
	25	草津市立草津第二小学校	115人
	7	4	滋賀大学教育学部附属小学校
9		栗東市立大宝東小学校	128人
9	4	近江八幡市立安土中学校	114人
	8	東近江市立船岡中学校	82人
	11	大津市立瀬田小学校	80人
	12	大津市立瀬田小学校	109人
	16	近江八幡市立安土中学校	114人
		彦根市立城南小学校	195人
	18	大津市立瀬田南小学校	151人
	24	滋賀県立安曇川高等学校	223人
	25	近江八幡市立北里小学校	41人
10	1	大津市立小松小学校PTA	60人
	9	大津市立膳所小学校	110人
	16	米原市立山東小学校	31人
	18	草津市立常盤小学校	49人
	20	大津市立中央小学校	42人
	22	大津市立田上小学校	96人
	23	滋賀県立信楽高等学校	72人
	24	愛荘町立秦荘西小学校	32人
	27	大津市立小野小学校	34人
	30	竜王町立竜王小学校	72人
11	4	大津市立上田上小学校	21人
		大津市立仰木の里小学校	46人
		東近江市立五個荘小学校	134人
	5	草津市立笠縫小学校	97人
		滋賀県立東大津高等学校	398人
	6	長浜市立湯田小学校	80人
	10	大津市立晴嵐小学校	148人
	11	湖南市立菩提寺北小学校	58人
	13	滋賀県立膳所高等学校	40人
	18	大津市立平野小学校	215人
	21	私立近江兄弟社高等学校	37人
	25	守山市立物部小学校	148人
	27	大津市立青山小学校	195人
	28	守山市立守山小学校	162人
12	1	東近江市立玉園中学校	114人
	8	米原市立大東中学校	115人

月	日	学 校 等 名 称	人数
	9	近江八幡市立八幡小学校	169人
	10	近江八幡市立老蘇小学校	18人
		竜王町立竜王中学校	325人
	11	野洲市立祇王小学校	97人
1	21	日野町立日野小学校	89人
	27	愛荘町立秦荘東小学校	37人
	28	高島市立安曇川中学校	111人
	29	滋賀県立守山養護学校小学部	10人
2	3	湖南市立日枝中学校	118人
	18	愛荘町立愛知中学校	137人
	23	豊郷町立豊日中学校	79人
3	6	草津市立玉川中学校	187人

59校 6,251人

2 広報活動

新聞等報道記録（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

月	日	内 容	報道機関
平26	4	4 県平和祈念館がボランティア募集	朝日新聞
		戦争体験の語り部 平和祈念館が募集	中日新聞
		7 アニメと実写で戦争語り継ぐ 県平和祈念館初めての映像制作	毎日新聞
		11 「被爆桜」3輪かれんに	中日新聞
		12 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ①満州報国農場勤労奉仕隊旗	京都新聞
		16 「被爆桜」紹介	びわ湖放送
		18 県平和祈念館に季節の花々贈る 甲良養護学校卒業生	中日新聞
		19 戦火を逃れた五月人形 県平和祈念館で展示	朝日新聞
		23 ボランティア募集	滋賀報知新聞
		戦火を逃れた五月人形展示紹介	滋賀報知新聞
		24 戦火逃れた五月人形 兄妹と疎開 県平和祈念館で展示	中日新聞
		26 ミニ大凧も次々と完成 「東近江大凧まつり」あと1か月	滋賀報知新聞
		モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ②清酒「大飛行正宗」の看板 八日市飛行場発展願う	京都新聞
		27 「学徒出陣」の制度と実態 平和祈念館で平和学習講座	滋賀報知新聞
5	2	2 学徒出陣学ぶ講座生を募集	中日新聞
		4 五月人形が語る戦争の悲惨さ	京都新聞
		昭和初期の「故郷」原風景 平和祈念館で写真展示	滋賀報知新聞
		10 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ③日章旗の為め書き	京都新聞
		13 戦火逃れた五月人形 疎開兄妹思い出の品 「子どもら平和に関心を」	毎日新聞
		14 「自分史づくり講座」紹介	F Mひがしおうみ
		15 県平和祈念館2周年企画	じんけん(2014年5月号)
		20 「そだてて、たべよう！戦時食」参加者募集	読売新聞
		21 学徒出陣テーマに 県平和祈念館 講座開講中	毎日新聞
		22 親子で体験 戦時食づくり	滋賀報知新聞
		創作の紙芝居で訪問 平和祈念館ボランティア 建部堺町の茨木さん	滋賀報知新聞
6	10	10 館長講座 人生を記録 自分史づくり講座	滋賀報知新聞
		14 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑤飛行場拡張に関わる書類	京都新聞
		20 館長がアドバイス『自分史づくり講座』	滋賀報知新聞
		27 奉安庫一般公開	びわ湖放送
6	28	28 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑥飛行機の無線を改造した受信機	京都新聞
		貴重な遺産「奉安庫」	毎日新聞
		29 戦前の奉安庫一般公開	中日新聞
7	4	19歳で戦死 歩み振り返る 県平和祈念館で企画展 手紙や証言紹介	京都新聞
		4 友人の話や母への手紙140点 戦死の19歳生きた証し 県平和祈念館で企画展	毎日新聞
7	6	還らぬ戦友の思い知って 高橋さんの飛行服など展示	読売新聞

月	日	内 容	報道機関
	8	第8回企画展示紹介	F Mひがしおうみ
	12	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑦70年前の学習机	京都新聞
	15	『平和のねがい子どもたちへ』へいわの学校・あかり 滋賀県平和祈念館が開校	滋賀報知新聞
	17	へいわの学校・あかりの紹介	東近江ケーブルネットワーク
	19	子どもに伝えたい戦争と平和 第8回企画展示の紹介	滋賀リビング
	20	平和祈念館で開催中「還らなかった友へ」時代に翻弄された友人、そして家族	滋賀民報
	26	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑧田んぼで見つかった機銃弾	京都新聞
	29	地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り19 県平和祈念館 時代へ語り継ぐ戦争体験	毎日新聞
8	3	戦中の「すいとん」再現 平和のありがたさ学ぶ 夏休みの子ども向け平和祈念館連続講座	毎日新聞
	6	県平和祈念館で戦争体験聞く会	朝日新聞
		「兵隊さん、助けて」女の子の声今も耳に 原爆の愚かさ伝える「入市被爆した喜多さん体験語る」	朝日新聞
	9	戦争のこと教えて「滋賀県平和祈念館」戦争体験を4氏が語り継ぐ 11-17日映画や演奏会も	滋賀報知新聞
	12	戦争悲話描く星の物語 プラネタリウム用番組上映 心の傷伝える使命 対戦車自爆装置、寸前回避 プラネタリウム番組「戦場に輝くベガ」紹介	毎日新聞 読売しが県民情報 F Mひがしおうみ
	13	戦争体験を聞く会 遺物は語る市民生活と戦争④ 星空目印に飛行した爆撃機描く 「戦場に輝くベガ」上映	毎日新聞 京都新聞 京都新聞
	14	自分史に挑戦を東近江で来月講座 過酷な終戦後切々と満洲引揚竹村さん 平和祈念館で語る 特攻隊訓練や戦中の学校体験者語る あす東近江 演奏会や平和祈願も 疎開児童の生活 紹介 写真や日誌昼食レプリカも	中日新聞 中日新聞 京都新聞 京都新聞
	15	母へ綴った手紙48通 還らなかった友へ 「国に殉じた尊い血によって平和がある」 東近江・平和祈念館で戦争体験を聞く会 特別年少兵・福井さん語る 語りつぐこと～滋賀県平和祈念館～	滋賀報知新聞 産経新聞 びわ湖放送
	16	平和の大切さ子に伝え「戦友は誰も帰らず」 元水上特攻隊員東近江で講演 神仏に感謝の心 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑨神風特別攻撃隊竜虎隊の飛行靴 あんどん500個願いともす 「終戦の日」県内でもさまざまな行事 戦時食体験や公開授業…県平和祈念館 不戦の誓い県内も 戦没者に感謝忘れないで 脇坂さん特攻直前に終戦	京都新聞 京都新聞 中日新聞 産経新聞 読売新聞
	17	あの夏の記憶滋賀と戦争②農村	中日新聞
	18	あの夏の記憶滋賀と戦争③特攻	中日新聞
	18	あの夏の記憶滋賀と戦争④空襲	中日新聞
	20	真珠湾攻撃で戦死 遺品でしのぶ生涯 東近江で企画展	中日新聞
	25	還らなかった友へ 県平和祈念館で企画展（愛東）	湖国とりびゆぬ
	27	灯 平和と感謝	京都新聞
	28	子どもたちよ！私の戦争体験 9 喜多康巳さん	中日新聞
	30	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑩2本の万年筆	京都新聞

月	日	内 容	報道機関	
9	2	悲劇から学んでほしい 原爆投下直後の広島特別救助隊 機関車の防空壕見学会 来月18日開催、参加募る	毎日新聞 毎日新聞	
	5	自分史のすすめ 6日平和祈念館	滋賀報知新聞	
	13	近江キラリびと 原爆、特攻の語り部を続ける喜多康己さん モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑪夫の形見の観音	京都新聞 京都新聞	
	17	湖国の戦争生徒ら学ぶ 安土中 特攻機飛行場や食生活など	京都新聞	
	27	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑫捕虜収容所に投下された箱	京都新聞	
10	3	蒸気機関車避難壕 見学と体験談 申し込みは10日まで	滋賀報知新聞	
	7	「日常から戦時を」25日から連続講座 県平和祈念館	中日新聞	
	8	参加者募集 米原市の蒸気機関車避難壕の見学&戦争体験を聞く会	滋賀報知新聞	
	9	戦時を考える 平和祈念館の講座 平和学習講座と第9回企画展示の紹介	滋賀報知新聞 東近江ケーブルネットワーク	
	11	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑬戦地からのハガキ	京都新聞	
	25	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑭絵日記	京都新聞	
	26	部屋の壁貫く弾痕「空襲 怖さ知って」 県平和祈念館 民家の部材展示	京都新聞	
29	戦時中の教科書・日記展示 東近江で「子どもの見た戦争」展	朝日新聞		
11	4	子どもたちの見た戦争 次代に伝えるもの 平和祈念館の企画展示	滋賀報知新聞	
	8	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑮城南国民学校の卒業写真	京都新聞	
	11	東近江市立湖東第二小 子ども目線の戦争学ぶ	読売しが県民情報	
	22	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑯戦死した義兄の遺書	京都新聞	
	24	子どもたちが見た滋賀の戦争	湖国とりびゅぬ	
12	13	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑰日の丸の鉢巻き	京都新聞	
	17	「軍神」戦後は一転 真珠湾攻撃体当たりの19歳	毎日新聞	
平27	1	7 第10回企画展示紹介 22 戦時物語る収蔵品 24 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑰学校で描いた軍艦の絵 27 戦時の心情 遺品は語る 30 資料の語りにも耳を 戦後70年護る、祈り、記す、伝える 200点以上の軍装品や写真	NHK大津 読売新聞 京都新聞 中日新聞 滋賀報知新聞	
	2	11	戦争を体験していない大人へ 地域への出前講座 子どもたちへ語り継ぎを	滋賀報知新聞
		14	子供らの願い 短冊に モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑱碁盤と碁石 戦時や平和をテーマに 愛東地区民の作品展 滋賀県平和祈念館で開催中	毎日新聞 京都新聞 滋賀報知新聞
		15	戦時を物語る220点 県平和祈念館	朝日新聞
19		89歳が描く戦争大絵図 祈念館で作品展	中日新聞	
20		開館3周年記念事業の紹介	東近江ケーブルネットワーク	
28		モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ⑳遺書として書いた寄せ書き	京都新聞	
3		14	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ㉑主人との思い出の水筒	京都新聞

月	日	内 容	報道機関
	15	戦時中の苦難聞き 思い新た 平和祈念館	京都新聞
	16	「戦争の記憶 伝え続ける」 平和祈念館 開館3周年前に活動報告	産経新聞
	26	語りつぐ平和へのねがい 開館3周年で記念事業 滋賀県平和祈念館	滋賀報知新聞
	28	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ②父が作った竹やり	京都新聞

3 組織（平成27年3月現在）

(1) 職員

館長	端 信行
副館長	北川 光明
副主幹	名倉 康夫
主査	田中 慶希
主査	高屋 大樹
主任主事	前川 啓史
学芸員	北村 美香
嘱託員	坂井 秀男
嘱託員	日高 昭子
臨時的任用職員	近藤 恵

(2) 職員構成

区分	館長	行政職	研究職	教育職	嘱託・臨職	合計
人数	1	3	1	2	3	10

(3) 滋賀県平和祈念館運営会議

座長	端 信行（滋賀県平和祈念館長）
委員	中島 伸男（八日市郷土文化研究会 会長）
	中井 均（滋賀県立大学 教授）
	岸田 孝一（一般財団法人滋賀県遺族会 会長）
	村山 邦博（愛東地区まちづくり協議会 事務局長 愛東コミュニティセンター 館長）
	増田 隆（NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長 あいとうエコプラザ菜の花館 館長）
	吉澤 浩明（東近江市企画部企画課 課長）
	畑 重三（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 会長）
	中澤 光子（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 副会長）

(4) 滋賀県平和祈念館展示等監修委員

委員	原田 敬一（佛教大学 教授）
	原山 浩介（国立歴史民俗博物館 准教授）

4 決算（平成26年度）

○歳入状況

（単位：円）

科目	決算額
基金繰入金	34,229,552
諸収入	1,835,221
合計	36,064,773

○歳出状況

（単位：円）

事業名	主な事業内容	決算額
管理運営費	施設維持管理費、施設運営費、事務費、広報費	26,964,186
展示事業	企画展示、特別企画展示、地域交流展示	2,275,981
資料収集保存事業	収蔵資料防虫防かび対策、研究図書購入、収蔵資料等デジタルデータ管理・公開システムの運用	2,098,910
普及啓発事業	平和学習講座、戦争体験を聞く会、戦争遺跡見学FWへいわの学校☆あかり	1,368,130
平和学習支援事業	平和学習支援教材作成	3,357,566
合計		36,064,773

5 施設概要

○所在地 滋賀県東近江市下中野町 431 番地

○建物概要

構造 鉄筋コンクリート 2階建
敷地面積 2,864.00㎡
延床面積 3,115.45㎡
1階 1,759.03㎡
2階 1,356.42㎡

○開館年月日 平成24年3月17日

○平面図



6 利用案内

- 入館料 無料
- 開館時間 午前9時30分から午後5時
- 休館日 月曜日および火曜日（ただし祝日にあたる場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
※その他、業務の都合により休館する場合があります。
- 駐車場 約50台（無料）
- アクセス



- ・名神高速道路「八日市 I C」から車で約 10 分
- ・JR 琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約 20 分「愛東支所・診療所前」下車すぐ

7 関係規程

滋賀県平和祈念館の設置および管理に関する条例

平成23年滋賀県条例第48号

(設置)

第1条 県民に戦争の悲惨さおよび平和の尊さを伝えることにより、平和を願う豊かな心を育み、もって平和な社会の発展に資するため、滋賀県平和祈念館（以下「平和祈念館」という。）を東近江市下中野町に設置する。

(業務)

第2条 平和祈念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県民の戦争に関する体験の記録その他の資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「資料」という。）を収集し、保管し、展示し、および利用に供すること。
- (2) 平和を願う豊かな心を育むために必要な普及啓発を行うこと。
- (3) その他平和祈念館の設置の目的を達成するために必要な業務

(開館時間等)

第3条 平和祈念館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 平和祈念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日および火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日である場合を除く。）
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

3 知事は、必要と認めるときは、第1項に規定する開館時間を変更し、または前項に規定する休館日を変更し、もしくは臨時に休館日を定めることができる。

(特別観覧の許可)

第4条 平和祈念館が保管する資料の熟覧、模写、模造、撮影その他の利用（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請し、その許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、前項の規定による申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) 平和祈念館における秩序を乱し、または善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 資料または平和祈念館の管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他特別観覧を許可することが適当でないとき。

3 知事は、第1項の規定による許可をする場合においては、資料または平和祈念館の管理上必要な限度において、条件を付することができる。

(特別観覧の許可の取消し等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の規定による許可を取り消し、または特別観覧を制限し、もしくは特別観覧の停止を命ずることができる。

- (1) 前条第1項の許可を受けた者（以下「特別観覧者」という。）が詐欺その他不正の行為によって同項の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 特別観覧者がこの条例またはこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (4) 特別観覧者が前条第3項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 当該許可に係る資料が災害その他の事故により特別観覧に堪えなくなったとき。
- (6) その他知事が特に必要と認めるとき。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、平成24年3月1日から施行する。ただし、第2条第1号（資料の展示および利用に係る部分に限る。）および第4条の規定は、同月17日から施行する。

滋賀県平和祈念館 年報 第3号 (平成26年度)

発行日 平成27年(2015年)7月1日
編集・発行 滋賀県平和祈念館
〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地
TEL 0749-46-0300 / FAX 0749-46-0350
E-Mail heiwa@pref.shiga.lg.jp
印刷 株式会社ヒコハン

